

第 4 回 館山市議会定例会会議録

(第 3 号)

1 平成6年12月16日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 22名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	17番 鈴木 忠夫
18番 日下 君敏	19番 川名 正二
20番 生稲 陞	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	28番 飯田 義男

1 欠席議員 4名

16番 鈴木 勝美	23番 石井 昌治
26番 辻田 実	27番 横溝 功

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 神子 純一	民生部長 渡辺 富雄
建設部長 三平 孝司	水道課長 谷貝 実
教育委員会 教育長 高橋 博夫	

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
書記 四ノ宮 朗	書記 安田 仁一
書記 小山 真	書記 松浮 郁夏

1 議事日程(第3号)

平成6年12月16日午前10時開議

- 日程第1 {
- 議案第41号 安房郡市広域市町村圏事務組合規約の変更に関する協議について
 - 議案第42号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について
 - 議案第43号 館山市乳幼児医療費支給条例の一部を改正する条例の制定について
 - 議案第44号 館山市母子又は父子の家庭に対する医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - 議案第45号 館山市心身障害者医療費支給条例の一部を改正する条例の制定について
- 日程第2 {
- 議案第46号 平成6年度館山市一般会計補正予算（第2号）
 - 議案第47号 平成6年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第1号）
 - 議案第48号 平成6年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第2号）
- 日程第3 {
- 請願第21号 「義務教育費の国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願書
 - 請願第22号 「教育予算の増額に関する意見書」採択に関する請願書
 - 請願第23号 境川の改修及び代田排水路の整備をもとめる請願書

開 議 午前10時03分

◎副議長（小宮利夫君） 本日の出席議員数22名、これより第4回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎副議長（小宮利夫君） 日程第1、議案第41号乃至議案第45号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎副議長（小宮利夫君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 通告いたしました諸点についてお尋ねをいたします。

議案第41号安房郡市広域市町村圏事務組合規約の変更に関する協議についてでございますが、説明によりますと、組合が共同処理する事務のうちに新たに老人保健施設への助成に関する事務を追加することとあります。老人保健施設は、病院と在宅を結ぶ中間施設として位置づけられ、リハビリなどによって寝たきりのお年寄りが在宅で生活していくための機能の回復を図り、在宅での生活を可能にしていくための施設であります。福祉施設としてよりも、医療施設としての認識をこれまで持っていたところであります。したがって、今後も老人病院などからこの老人保健施設に転換していくこと等を通じて必要量が充足されていくのではないかと考えておりました。

そこでお尋ねいたしますが、安房郡市における老人保健施設の設置状況及び今後の計画について、どのようなになっているのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、老人保健施設の設置、管理及び運営に要する費用の一部助成について、どのような基準によって行おうとするものなのでありましょうか。今回の補正予算に既にこの協議が成立することを前提にして1,536万4,000円が計上されているところでありますが、どのような考え方で積算されたものなのでありましょうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第43号館山市乳幼児医療費支給条例の一部を改正する条例の制

定について、議案第44号館山市母子又は父子の家庭に対する医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第45号館山市心身障害者医療費支給条例の一部を改正する条例の制定について、一括してお尋ねをいたします。

いずれも、健康保険法の改悪で入院給食費の自己負担が導入されたことに伴い、その自己負担分を公費助成しようとするものであります。健康保険法の改悪により、入院給食の自己負担が導入されたところでありますが、乳幼児医療、母子、父子家庭医療、心身障害者医療については、今回の措置によって、その制度の本来の意義が、県、市の財政負担とはなりましたが、とにかくも守られました。国の制度改悪の中であって、一部ではありますが、地方自治体が住民の命と暮らしを守る防波堤としてその役割を果たしたというこの事実は大変重要なことであると評価するところであります。

そこで、乳幼児医療、母子、父子家庭医療、心身障害者医療の3つ以外にもこれまでさまざまな公的な医療保障制度がありました。それらは今回の健康保険法の改悪の結果どのようなになったのでありましょうか、公的な負担制度は維持されたのでありましょうか、いかがですか。例えば、難病医療、被爆者医療、公害患者医療等の入院給食費の自己負担はどのようになりますか、御説明をいただきたいと思います。

次に、館山市は単独事業として寝たきり老人に対する医療の無料措置をとっておるところであります。この場合の入院給食費の助成については今回の提案にはありませんでしたが、どのように考えられておるのでありましょうか。制度の趣旨から考えて、当然入院給食費の公的な助成の対象とすべきだったと思うのでありますが、いかがでありますか。

次に、乳幼児医療について、対象を6歳未満から小学校就学前まで拡充することについて、さきの行政一般質問の中で質問をしたところでありますが、実施について、4月からということで検討しているということでありました。私は今回の措置とあわせて実施すべきと思うのでありますが、そのためには予算など財政上の問題があるという御答弁でありましたが、実際問題としてはそれはほとんどないものと思います。予算的には一体幾らぐらいが必要額

と想定されるのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（小宮利夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第41号に關します小さな第1点目、安房郡市内の老人保健施設設置状況についての御質問でございますが、現在安房郡市内には1施設ございます。安房地域老人保健福祉圏域施設整備計画では、建設中のものを含め、4施設を整備する計画となっております。

小さな第2点目、老人保健施設への助成の基準についての御質問でございますが、設置に關しましては、建設事業費に対しおおむね5％になっております。

次に、議案第43号、第44号及び第45号に關します御質問の小さな第1点目、難病、被爆者等に対する食事療養費の扱いについての御質問でございますが、特定疾患、被爆者等の医療制度は、入院時の食事料を分離することなく、従来どおり医療給付の対象となっております。

小さな第2点目、寝たきり老人医療についての御質問でございますが、今回の条例改正は県の補助対象となりました事業につきまして改正しようとするものでございます。

小さな第3点目、乳幼児医療を就学前にした場合の財政負担は幾らかとの御質問でございますが、現行制度によりまして助成必要経費を推計いたしますと、年間100万円程度が見込まれます。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 老人保健施設にかかわる問題でありますけれども、建設費の5％が今回の助成の考え方ということでありまして、これは各市町村が5％負担をする、そのうち館山市がどれぐらいという意味なのか、館山市が建設費の5％負担をする、どちらの意味なのか、ちょっと今の御答弁では受けとめられなかったので、改めて御説明をいただきたい。

なお、この提案されている規約では管理運営の費用についても助成の対象というふうになっておりますけれども、こうした今後の管理運営についてはどのように議論がされておるのか。設置の費用ばかりでなく、管理及び運営に関しても今後助成をしていくというような規約の改正になっておるわけですが、この辺についての考えをお聞かせいただきたいと思います。

それから、館山市の地域内に今後老人保健施設を、120人規模の老人保健施設をつくるということが市の老人保健福祉計画の中に位置づけられているわけでありまして、この老人保健施設の設置について、館山市の老健計画によりますと、平成4年の長期入院が184人あった。これを平成11年度の目標年次では86人にする。約100人—98人ですけれども、約100人減らせる、長期入院を減らせるということを前提に計画がされているわけで、ということは、その一方で老健施設を、120人定員のものを設置するというものを勘案してみますと、ここにあるのは老人病院から老人保健施設への転換という問題が考えられているのではないかな、想定されているのではないかなという感を持つんですけれども、そういう場合ですと、施設の新たな設置という問題とかなり様相は違ってくるんじゃないかなと思うんです。そういう際については、この助成とかという問題についてはどのように考えられておるのか、この辺についてのお考えもあわせてお聞かせいただきたいと思います。

それから、次に入院給食費問題でありますけれども、乳幼児医療の対象を小学校就学前までにした場合に、年間の負担増は100万円ということでありますから、10月1日から実施ということで想定した場合には、半年分ということで、50万円程度の予算措置ということが必要になるのではないかなと思うんですけれども、せっかく提案された今度の議案ではあるんですけれども、10月1日ということで、県の制度に整合性を持たせて実施をしていくというようなお考えは—4月から実施ということで御答弁があったんですけれども、もう一步進めて考えられないかどうか、お聞かせいただきたいと思います。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 総建設費の何％というとりえ方で、これは館山市だけの負担率ではございません。関係市町村全体の負担率でございます。

それから、2番目の管理運営費、これにつきましては、この老人保健福祉計画は各市町村には負担をおかけしないということで伺っております。

それから、3点目の今後の老人保健福祉計画、確かに計画では186床の目標ということから——これは館山市だけの目標値でございますけれども、しかし、こういった施設は安房広域圏域全体の中で調整を図って建設を進めていこうということですので、そのうちに館山市内に120床規模の施設をということで計画をしているわけでございます。今後関係市町村、関係機関と協議の上、進めてまいりたいというふうに考えております。

それから、乳幼児の医療関係でございますけれども、先ほどの市長の答弁は、100万円程度という経費を考えておりますけれども、これは10月1日から改正されたためにふえた金額でございます。したがって、2分の1の50万円というとりえ方ではございません。100万円必要経費として出てくるということでございます。

この改正について、来年の4月1日から施行したいということで検討しているところでございますけれども、この改正につきましては、今回の入院給食費の改正、これは10月1日から法の改正に伴っての改正でございます、これとは別の問題であるというふうに考えているわけです。対象6歳未満を就学前に改正する、こういった改正規定は、年度途中で改正しますと実は不公平な部分が出てまいります。といいますのは、例えば現行規定でいきますと、年度前半に6歳に達したというケース、それと改正に伴ってその後に対象になってきたという者との不公平という問題が出てまいります。そういったことも考えますと、こういった規定は年度切りかえで改正するのが的確じゃないかというふうに考えております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 老健計画の問題で、老人保健施設に関する助成については、設置にかかわる費用の5％を市町村が共同して負担をしますよ、

しかし管理運営についてはそういう考えはないというお考えだったんですけれども、それじゃお伺いしますけれども、なぜ規約にこういうふうに書いたんですか。これは当然特別養護老人ホーム、精神薄弱者更生施設、老人保健施設の設置、管理及び運営に要する費用の一部助成に関するということとということで今回つけ加えるわけです。どう見たって設置だけじゃなくて、管理及び運営に要する費用、全体が入っているんです。これはやはり常識的に、今の御説明のとおりだとするならば、特別養護老人ホーム、精神薄弱者更生施設の設置、管理及び運営に要する費用の一部助成、それに対して老人保健施設の設置に要する費用の一部助成に関するということとということで、これを同列に扱うべきじゃないと思うんです、全然違うわけですから。管理運営に関する費用は助成の対象にしないというお考えなんでしょう。そういうことで協議が調っているならば、何で規約上管理及び運営に要する費用まで助成できますよという規定にしたのか。これは将来はそういうことを考えているという含みがあるのか。規約ですから、1年度、2年度、今年度、来年度の問題じゃなくて、長期的にわたる問題ですから、この辺のことはきちんとしなきゃいけない問題だろうと思うんです。なぜこの規約では管理及び運営に要する費用の一部が助成できるような形で考えられているのか、御説明をいただきたいと思うんです。

それから2つ目は、今後の館山市の老人保健施設をどうやって充足していくかという問題で、私自身考えていたことは、老人病院からの転換というものをかなり考えていかないと、この186床ですか、こういう数を短期間に充足するというのはかなり難しいだろう。現実に長期入院を相当減らすという計画になっているわけですから、当然従来老人病院でシフトしていたものを老健施設の中にシフトを変えていくという意味合いが込められているものだというふうに私なりに理解をしていたんですけれども、そういう理解の仕方は違うのかどうか。だとすれば、老健施設をつくる場合の設置費用という問題についても、新たにつくるというだけじゃなくて、現在の老人病院を一定の措置をとって転換をしていくという場合には、どういうふうに助成について考えていくのかというのは総体的に別の問題があると思うんです。そこら

についての議論がされたのかどうか、またどういうふうを考えられているのか、そのところを知りたいと思っています。そういうことはなくて、老人病院からの転換という問題は一切眼中にないんだ、新たに老健施設は老健施設でつくるのだということならば、それはそれで、一つの考え方で、御答弁いただければ理解いたしますけれども、その辺についてどうなのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 1点目は後ほどまた資料を取り寄せてお答えいたしますけれども、2点目の老人保健施設のこれからの充実というお話ですが、この老人保健福祉施設は医療機関に併設をしていくということが基本にあるわけです。そうなりますと、相当の経費を医療機関に御負担を願うということになろうかと思っておりますけれども、いずれにしても、これからこの施設につきましては安房地域老人保健福祉圏域の各関係市町村、医療機関と協議してまいります。そういったことでこれから検討してまいりますけれども、これからのこういった施設の管理運営面での助成の仕方、これにつきましても安房広域圏との協議の重要な事項になろうかと思っております。そういったことで今後検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 暫時休憩します。

午前10時25分 休憩

午前10時29分 再開

◎副議長（小宮利夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 先ほどの1点目の御質問でございますけれども、安房郡市広域市町村圏事務組合の規約の解釈でございますが、一部助成という表現を使っているわけですが、施設のそれぞれの性格はありますけれども、その中の一部助成。したがって、今回の老人保健施設、この施設についても設置の一部を助成という解釈でお願いしたいと思います。御理解をお願いします。

◎副議長（小宮利夫君） 以上で21番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告しない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（小宮利夫君） ただいま議題となっております議案第41号乃至議案第45号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎副議長（小宮利夫君） 日程第2、議案第46号乃至議案第48号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎副議長（小宮利夫君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 議案第46号平成6年度館山市一般会計補正予算（第2号）についてお尋ねをいたします。議案説明書の26ページをお開きいただきたいと思います。補正予算主要事業説明書であります。民生費の中にあります老人ホーム入所措置扶助費として1,945万3,000円が計上されておりますが、これについてお尋ねをいたします。

今回の増額補正の理由は措置人員の増によるためということで、当初予算段階では70人だったものが86人と、16人も増員が見込めることになったというものであります。当初見込みよりも20%以上もふえたことになります。過去の措置人員の動向を調べてみましたが、平成2年度は61人、3年度は64人、4年度は70人、5年度は77人、そして今年度の見込みは86人ということであり、毎年いわば順調にふえているという感じがするわけですが、

しかしながら、実際は老人ホームに入所するのはなかなか大変であります。施設の数に限られているため、実際にそれだけの必要性のある方がいても、定員にあきがないければ入れません。その枠は大変だと言われて、東大に入学するのも難しいが、老人ホームに入るのはそれよりもずっと難しいと言われているそうであります。特別に施設がふえているわけでもないのに入所者がどんどんふえているというのは、担当者の大変な努力の結果ではないかと思うのでありますが、この増員の理由について御説明をいただきたいと思います。

次に、しかしながら同時に、それでもなかなか入所できないのが老人ホームであります。最近の入所待ちの状況はどのような状況でありましょうか。待機者の動向について、その人数と待ち期間はどの程度のものなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案第48号平成6年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第2号）に関連をしてお尋ねをいたします。行政一般質問でお尋ねした日本下水道事業団をめぐる談合疑惑について、公正取引委員会の取り調べ中であるため、コメントは控えたいという答弁でございましたが、これはどういうことなのでありましょうか。こういう事件が起きたからこそ、市長としてしっかりとした見識を示して、館山市の公共下水道事業についてはそういう疑惑は起きないのだという安心を市民に示すことが求められていると思うのであります。こうした立場から、いま少し市長の御見解をお尋ねしたいと思うのであります。

日本の公共下水道事業の現在の発注システム、すなわち日本下水道事業団の言い値で事実上契約金額が決まっていくといういわば日本下水道事業団に全幅の信頼を置いて行う現在のシステムには、競争を前提とした公正性を確保する上で問題があるのではないか。今回の事件を通して問題点を解明し、その是正を図っていくことが将来に向けて求められていることではないかというのが今回の率直な感想であります。もとより、一市長がどうこう言って簡単に解決する問題でないことは当然だと思います。しかし、そうした議論を全国の市長、市議会、こうした場で起こしていくということが国政に重大

な影響を及ぼす、そういう意味で意味のあることだと思っております。こうした立場から、市長さん御自身のこの問題についての御見解を改めてお聞かせいただきたいと思いますのであります。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（小宮利夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第46号に関します老人ホーム入所措置扶助費の御質問でございますが、入所者の増加につきましては、ベッドのあきぐあいによる増でございます。館山市の待機者数は、12月1日現在で養護老人ホーム2名、特別養護老人ホーム8名でございます。待機期間は状況により異なります。

次に、議案第48号に関します下水道事業の発注のシステムについての御質問でございますが、入札は透明性、競争性、公正性を確保することを念頭に置いて行われるものでございます。現在新聞等により報道されておりますのは日本下水道事業団における電気設備工事についてでございます。この問題につきましては公正取引委員会が調査中でありますので、事実関係が明確でないことから、事実の推移を見守っているところでございます。

以上でございます。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 老人ホームの問題でありますけれども、待機者にとっては状況によって違いますというんですけれども、なかなか老人ホームというのは重要な施設で、今回の老健計画の中でも特別養護老人ホームについての計画も示されているわけでありまして、また同時に、養護老人ホームについては今回の計画の中では一切ないわけですが、かわってケアハウス50人定員ということで――軽費老人ホームですね、こういう施設の設置を検討されているということになってはいるわけですが、このケアハウス、軽費老人ホーム、この館山市にとっては今までなかなかこういう施設の利用というのができなかったところで、私自身も自分自身いろいろな場面で体験をしていく中で、特別養護老人ホームには該当しない、あるいは

養護老人ホームには該当しない、しかしながら何か見なければいけない、しかしながら今のヘルパーの体制の中では十分見切れないというような、そういうケースというのが結構見られる。ひとり暮らしあるいは老人だけの2人暮らしというようなケースで、やはり軽費老人ホーム、ケア付きのこうした軽費老人ホームというのは、今の館山市の状況を考えた場合に、非常に的確な施設なんじゃないかなという印象を持っているんですけども、なかなかこれについての具体的な方向や動きが見えてこないというのが昨今の状況ではないかなと思うんです。

館山市の計画で、このケア付きの軽費老人ホームについてはどうも民間施設の誘致という位置づけを持っておりますけれども、果たしてそれで設置の見込みが立つのかどうか。やはり軽費老人ホームとして建設する以上は、公的な公営住宅としてこの軽費老人ホームについての接近ということを考えなきゃいけないんじゃないかなと思うんですけども、そこいらについてどのようにお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） ケアハウスの今後の設置の考えという御質問でございますけれども、確かにこれから高齢化社会に向かってまいりますと、お年寄りが自立した生活を確保できるような、こういった工夫したケアつきハウスということがこれからますます需要が高まってくるかと思っておりますけれども、現在このケアハウス、いわゆる軽費老人ホーム、県下では2カ所しかない現状でございます。そういったことで、各市町村とも設置に向けて苦慮している施設でございます。今後館山市の老人保健福祉計画の中では50人定員を1施設という計画になっておりますけれども、これからは特別養護老人ホーム等、こういったハード面の施設、これは重要な施策であるし、また反面、経費が非常にかかるわけです。そういったことで、これから関係市町村と、それから医療機関、こういった機関を含めての協議事項になってまいりますので、これから鋭意検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 神田守隆さん。

◎21番（神田守隆君） 鋭意検討することなんですけれども、老健計画の中では民間施設の誘致といういわば民間路線なんです。実際そういうことでこれまで経過してきた中で、そのことの見込みがあるというふうに踏めるのかどうか。かなり公的な関与なしにはそれはちょっと無理なんじゃないか。単なる待ちの体制ではなくて、やはり公営住宅、公営施設として公的にそれを担保していくという方向を出さないと、実現性は極めてないんじゃないかな、限りなくないんじゃないかなと思うんです。そこらについてどういうふうに考えているかということをお聞かせいただきたいんです。

◎副議長（小宮利夫君） 渡辺民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 確かにこの老人保健福祉計画の膨大な事務量、これをすべて満たすということは非常に難しいかと考えております。それが正直な考えでございますけれども、これからこういった施設を充実していくためには、公の施設だけではなくて、民間をいかに抱き込んでいくか、そういった施策はこれから必要じゃないかというふうに考えるわけです。確かに民間がこういった施設を建設した場合には、その後の管理運営面、これは大変なことだろうと思います。とはいっても、高齢化社会に進んでいきます今の現状から考えますと、民間の経営手腕といいますか、そういったことも抱き込んでやっていかなければならないということで――漠然な考え方でございますけれども、そういう考えを持っております。

以上です。

◎副議長（小宮利夫君） 以上で21番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（小宮利夫君） ただいま議題となっております議案第46号乃至議案第48号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎副議長（小宮利夫君） 日程第3、請願第21号乃至請願第23号の各請願を一括して議題といたします。

委員会付託

◎副議長（小宮利夫君） ただいま議題となりました各請願は、お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議長の報告

◎副議長（小宮利夫君） なお、この際申し上げます。

12月9日の議会運営委員会までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付いたしましたので、報告いたします。

延 会 午前10時46分

◎副議長（小宮利夫君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会したいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（小宮利夫君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明17日から21日までは委員会審査のため休会、次会は12月22日午前10時開会とし、その議事は議案第41号乃至議案第48号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは12月22日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第41号乃至議案第48号
- 1 請願第21号乃至請願第23号